

▶ S-KYT(消防団危険予知訓練)研修を実施して ◀

山梨県南アルプス市消防団

1. はじめに

山梨県の西部、南アルプス山麓に位置する本市は、美しい自然に囲まれた地域です。総面積264.14km²、山梨県の面積の5.9%を占め、平成31年4月1日現在の人口は71,602人です。北西部を流れる、御^み勅^{だい}使川が形成してきた広大な扇状地や、それに続く低地では果樹栽培が盛んに営まれ、春から秋にかけて沢山のフルーツが実る果樹園は、この地域を代表する景色となっています。

平成26年6月には、本市を含む山梨・長野・静岡の3県10市町にわたる「南アルプス」がユネスコエコパーク(生物圏保存地域)に登録されました。自然と人間社会との共生による持続可能な発展を掲げるエコパークの理念を実践し、未来を通じてこの地に人々の幸せな暮らしがあり続けるよう、市民と行政、関係者が一体となったまちづくりを進めています。

2. 南アルプス市消防団の概要

南アルプス市消防団は、1団本部6分団46団で構成されており、実員数789名(平成31年4月1日現在)が在籍し、うち女性団員は5名となっています。南アルプス市は近年の少子高齢化や都市部への人口の流出に伴う地域の消防団員の担い手不足、また団員のサラリーマン化による団活動の影響等から、団員の減少傾向にありました。今後の消防団員の確保に向けて、検討委員会を設置し、平成30年4月より災害時の活動に特化した機能別消防団員制度を導入いたしました。この成果もあり、消防団員が相当数増加したことで、同年には総務大臣より感謝状の贈呈を受けました。

3. S-KYT(消防団危険予知訓練)研修開催の経緯

本市消防団では、県消防学校にて開催している教育訓練に毎年多くの団員が入校しており、訓練礼式やポンプ操作、また、幹部養成課程等の各階級に応じた訓練を修了することで、火災等の災害に迅速に対応するための技術向上を図っています。

しかし、消防団活動は危険と隣り合わせであることも多く、消防団員の安全管理能力についても高めていく必要があることから、平成22年にS-KYT研修の実施に至りました。その後も団員のスキルアップを目的に毎年実施しており、今年度で10回目の研修となりました。

4. S-KYT(消防団危険予知訓練)研修を実施して

消防団各部の同指令階級にある班長以上を対象として受講者を募ったところ、今年度の研修では総勢約60名が受講、分団の垣根を超え、役職も年齢も違う団員同士で研修を行いました。消防団員の公務災害に関する講義を受けた後に、全員で声を出して指差し呼称による確認行動を学び、グループでの活動に移りました。初めは遠慮がちであったグループも指差し唱和やタッチアンドコールを行うことで一体感が生まれ、より活発な意見交換へとつながりました。

研修終了後のアンケートの中では、「自身の部で行っている健康確認が健康KYという重要な意味を持ったものであることを改めて知り、今後も部で続けていき後輩にも伝えていきたい」、「班長の立場にあるため、自分だけでなく他の団員の安全を守るためにも学んだことを実践したい」、「職場でKY活動の経験はあるが、消防団の

活動事例のシートを活用した危険予知のグループワークがとても勉強になった」等の意見が出ており、受講した団員に好評をいただいています。

5. 今後の取組について

現在実施しているS-KYT研修については来年度以降も継続実施していく、また、研修を受

講した団員が学んだことを各部の中で実践していくことで、今後の安全な活動に役立てていきたいと考えております。

最後に、今回の研修の実施に当たり御指導いただいた講師の皆様、御支援いただいた消防団員等公務災害補償等共済基金の皆様には感謝申し上げます。

